０３／０１／１２　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：深遠な神の憐れみ
聖書箇所：ヨナ書　１章１－１６節

神は憐れみ深いお方です。私たちは日々の信仰生活の中でそのことを実際に学びながら味わって歩んでいます。しかし、思うように事が運ばないとき私たちは気落ちしたり失望したり、時には怒りさえ覚えます。神のみこころを求めそれに従ったはずなのになぜ？と。後になってから、それが自分の側に問題があったのだと気付かされ反省します。こんなことの繰り返しですが、このような者を神さまは忍耐深く憐れんでくださいます。

旧約聖書の中の一人の人物、ヨナに神は憐れみをかけられました。このヨナ書を通して、神の憐れみを学びつつ、神がどんなに偉大なお方かを見てゆきましょう。

ヨナは北王国イスラエルの預言者でした。あのエリヤ、エリシャの後、アモスまでの４０年間に存在していた預言者です。1：1には「アミタイの子ヨナに」とありますが、列王記第二 14：25 では「ガテ・ヘフェルの出の預言者アミタイの子ヨナ」と書かれています。ガテ・ヘフェルはナザレの北東５キロの所にあります。そのヨナに神の命令が下ったのです。しかし、ヨナはその命令に逆らうのです。神がいかに憐れみ深いか、ヨナの行動を通して学びましょう。

１．不従順の選択　　1-3 節

2 節「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」、神の命令は「ニネベに行け」です。主の警告を告げるためです。「ニネベの罪が神の前に明らかになった」からです。ニネベはイスラエルの都サマリヤから東へ 880 キロ離れた、今のイラクですが、アッシリヤの首都でした。城壁に囲まれた大きな町です。しかし、ヨナはこの命令に逆らって、南に向かうのです。まず、地中海沿いの町ヨッパへ、そこからタルシシュへと。タルシシュはスペイン南部の町ターテサスのことです。イスラエルから西へ 4000 キロの距離があります。フェニキヤ人の植民地です。このフェニキヤはレバノンの海岸地帯にありますが、平地が少ないこともあって海にその力を伸ばして行きました。航海に長け、海外貿易が盛んで、地中海や南スペインに植民地をもっていたのです。

ヨナは「主の御顔を避けて」、神の命令に従いませんでした。主のみこころを知りながらそれに逆らう選択をしたのです。この「主の御顔を避けて」は 3 節に 2 度、10 節にも書かれています。なぜこのような選択をしたのでしょう？　いくつかのことが言われます。(1)ヨナは霊的に幼稚だったから、常に自分の思い通りにしようとした、彼は行きたくなかったのだ。(2)霊的でないから、人々が救われることに関心がなかったから、行きたくなかった。(3)余りにもその責任が大きすぎて、ヨナは恐れて逃げ出したのだ、ニネベは大きい町だったから。(4)ヨナはユダヤ人であり彼が利己的であったため、神の祝福を独り占めにしておきたかったから、等。

9 節には、ヨナが神に対する正しい知識をもっていたことが示されています。「私はヘブル人です。私は海と陸を造られた天の神、主を礼拝しています。」と、創造主であり遍在の神だと言います。しかも、ヨナは死を恐れていません。12 節に「私を捕えて、海に投げ込みなさい。」と言っていますから。故に、(1)から(4)の選択は当てはまりません。では、ヨナの選択はどうなのでしょう？ヨナの行動のカギを見てみましょう。

ニネベはアッシリヤの首都ですが、このアッシリヤは北イスラエル王国を征服しました。アッシリヤ人がどんなに残酷であったか、その捕虜に対する処置のむごたらしさの数々が記録に残っています。故に、ヨナはアッシリヤ人を嫌っていました。自分の国を滅ぼした敵である人々だと。このようなアッシリヤ人は滅ぼされて当然だとヨナは思っていました。ヨナ 4：2 を見ましょう。「…私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわいを思い直されることを知っていたからです。」と「わざわいを思い直される」その神から逃れることはできないが、この国から逃れようとしたのです。また、ヨナは預言者の職を捨てようとしたとも考えられます。自分たちの国を苦しめるニネベの人々のためになど働くことはできない、とヨナは思い、そのように行動したのです。しかし、それは主のみこころに反することでした。

後に悔い改めて主の命令に従ったヨナのメッセージによって、ニネベの人々は悔い改めることになりますが、150 年後に預言者ナホムによって再び神のさばきが告げられます。ナホム 3：1-7「ああ。流血の町。虚偽に満ち、略奪を事とし、強奪をやめない。むちの音。車輪の響き。駆ける馬。飛び走る戦車。

突進する騎兵。剣のきらめき。槍のひらめき。おびただしい戦死者。山なすしかばね。数えきれない死体。死体に人はつまずく。これは、すぐれて麗しい遊女、呪術を行なう女の多くの淫行によるものだ。彼女はその淫行によって国々を、その魅力によって諸部族を売った。見よ。わたしはあなたに立ち向かう。――万軍の主の御告げ。――わたしはあなたのすそを顔の上までまくり上げ、あなたの裸を諸国の民に見せ、あなたの恥を諸王国に見せる。わたしはあなたに汚物をかけ、あなたをはずかしめ、あなたを見せものとする。
あなたを見る者はみな、あなたから逃げて言う。『ニネベは滅びた。』と。だれが彼女を慰めよう。あなたのために悔やむ者を、どこにわたしは捜そうか。」と、ニネベは滅びることになります。

２．不従順に対する神の報い　　4-12 節
　ヨナの乗った船は、1：4「嵐」に会います。この「嵐」は「懲らしめ」です。ヨナを愛するが故の神の訓練なのです。それは、私たちにも同じです。神の訓練は神が私たちを愛しておられるから与えられるのです。それを私たちは正しく受け取らなくてはなりません。ここで、ヨナ以外の人々の反応を見ましょう。(1)嵐を恐れました。(2)多神教の神々に叫び祈りました。(3)船の積荷を海に投げ捨てました。(4)これは「わざわい」であるといいます。「わざわい」とは「悪」です。彼らは航海に長けていましたから、４月から 10 月は海が静かで航海は安全であるはずでした。どうして、このような「悪」が自分たちに襲ってきたのか恐れたのです。そこで、(5)くじを引きました。誰のせいでこの「わざわい」がやってきたのかと。この当時は「くじ」というのは神のみこころを求める方法として行なわれ、必ずしも神に背いた方法ではなかったのです。ヨシュア記 7：16 ではそれによって、アカンの罪が明らかになりました。また、新約でも使徒 1：26 で「くじ」が使われています。しかし、ペンテコステ以降は聖霊が信者に内在されることにより、
聖霊の導きとみことばによって神のみこころを知り、「くじ」は無くなったのです。そして、(6)ヨナに祈ることを要求しました。6 節「あなたの神にお願いしなさい」と。(7)ヨナに説明を求めます。8 節「だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、告げてくれ。あなたの仕事は何か。あなたはどこから来たのか。あなたの国はどこか。いったいどこの民か。」と。
　ヨナにとってこの出来事は、その中でいろいろなことを考える機会となり、神はヨナに教えておられます。「あなたは何者か？」と。異邦人を通してヨナは自分の信仰を告白することになったのです。5 節では、ヨナは「船底に降りて行って横になり、ぐっすり寝込んでいた。」とあります。このようなヨナの態度でしたが、ヨナは神のなさることが分かっていたのです。9 節はヨナの信仰告白です。「私はヘブル人です。私は海と陸を造られた天の神、主を礼拝しています。」と、唯一まことの神を信じる者だと言います。それは、フェニキヤ人の神を知っていたからです。それは、エルでありアシェラであり、バアルでした。バアルは天候の神、自然を司る神でしたから、「天の神」と比較したのです。また、フェニキヤの南の端はあのカルメル山です。バアルの預言者が滅びた所です（列王記第１、18：19～40）。「唯一まことの神」は天から火をもって答える神なのだと。フェニキヤ人はバアルの神に祈りましたが、何の変化もありませんでした。そしてヨナは、「主を礼拝しています。」と言います。この「主」は約束を与えそれを守られる契約の神です。12 節でヨナは助かる方法を告げます。「私を捕えて、海に投げ込みなさい。」と。神に逆らうことを止めるのです。

３．主の懲らしめの結果　　13-16 節
　船乗りたちは神のわざわいを知ったから、ヨナを助けようとします。自分たちで解決できる、そうしようとします。「船を陸に戻そうとこいだ」のです。しかしだめでした。そこで、14 節「彼らは主に願った」、ヨナの告白した神に向かって願ったのです。その神が主権者であり全能者であると分かったからです。そして、自分たちの罪に対してその責任を負わせないでほしいと願います。16 節、「人々は非常に主を恐れ、主にいけにえをささげ、誓願を立てた。」と、イスラエルの神をほめたたえるのです。彼らは主のみわざを目の当たりにして主を恐れるのです。船乗りたちはこうして救いへと導かれたのです。そして、ヨナ自身も変えられて行くのです。

⇒ヨナに与えられたレッスンから学びましょう。
(1) 神のみこころを知ることです。
神はすべての人を愛し救おうとしておられます。
神がどれほど憐れみ深いか、そして、その憐れみは異邦人にも及ぶということをヨナは学びました。
(2) 神のみこころに従うことです。

私たちに不平不満があるのは、自分の思い通りにしたいのに、そうならないからです。神のみこころを求め、それに従っていくなら、私たちには喜び、平安が与えられるのです。